



## 地下鉄短信 (第374号) 平成30年10月11日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 向田正博

電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



記事 ○第25回鉄道フェスティバルに出展しました。

○第25回鉄道フェスティバルに出展しました。



10月14日の「鉄道の日」は、明治5年に新橋・横浜間に初めて鉄道が開通したことを記念して、平成6年に制定されたもので、今年で24回目となります。その関連行事として、10月6日・7日の両日、東京都千代田区の日比谷公園で第25回「鉄道フェスティバル」が開催されました。

一般社団法人日本地下鉄協会は、「鉄道の日」実行委員会の委員として、この「鉄道フェスティバル」の開催に参画しており、例年のように日本地下鉄協会のブースを設けて出展しました。

### ◆秋晴れに恵まれたフェスティバル

初日の6日(土)は、前日雨天から回復し、晴天となり鉄道マニアのみならず家族連れで賑わいました。入場者数も69,000人と昨年に比べ出足が好調でした。2日目の7日(日)は、朝から秋晴れの晴天に恵まれ、例年のない賑わいとなりました。この結果、2日目の来場者数は81,000人となり、合計で150,000人となりました。

また、昨年に続き協会スタッフがお揃いのウインドブレーカーを着用して来場者の方々に対応しました。



### ◆会員事業者の紹介パネル



協会のブースでは、例年のことながら会員各社の最新の路線図や自慢の車両の写真などをビジュアルに配置した事業を紹介するパネルを作成し、テントの壁一面に掲出しました。

電車好きの子どもや、かつて利用していた出身地の交通局の路線図等を見ながら、当時の思い出を語り合うなど懐かしみながら熱心に各社局のパネルを見入っておりました。

### ◆売れ行き好調だった「交通局」の地下鉄グッズ

今年は、「札幌市交通局」「名古屋市交通局」「福岡市交通局」が日本地下鉄協会のブースを利用して、物品販売を行いました。

開店前からお目当てのグッズを探すファンが列を作って待つほどで、各交通局の前が黒山の人だかりとなり、会場入り口に近い当協会のブースはフェスティバルに相応しい盛況を博していました。

その中で、福岡市交通局では、「ICカード・はやかけん」発売40周年記念のICカードを求め、前日から徹夜組が出るなどファンで長蛇の列が出来、準備した500枚が僅か30分で完売するなど予想を上回る売り上げとなりました。また、名産の博多織のネクタイなども好評でした。

札幌市交通局では、「100周年記念Nゲージ車両」や過去から現在の車両を描いた「ハンカチ、タオル」などが好評でした。

名古屋市交通局では、「60周年記念タオル」などの販売やバスの「停車場表示のプレート」が完売するなど交通局グッズが好評でした。



(札幌市交通局ブース)



(名古屋市交通局ブース)



(福岡市交通局ブース)

### ◆好評だったスタンプラリーと協会グッズ



今年も、東京都交通局と協力し、3か所を巡るスタンプラリーが実施され、当協会もスタンプ設置場所になり、準備した3000枚の台紙もラリー参加の子供たちの行列ができ、昨年以上の賑わいとなりました。また、ラリー参加者には協会から「歩きスマホは危険です」キャンペーン等のティッシュを差し上げて喜ばれました。

また、協会では、会員31社局の車両前面写真をプリントしたクリアファイル5000枚の配布に合わせ、地下鉄を利用する際のマナーをイラストなどで楽しく学ぶことが出来るリーフレット「守ろう!電車のマナー(すごろく付)」を、ブースを訪れた皆様に(5000部)お配りしました。

フェスティバルで恒例となったこのクリアファイルを楽しみにしている鉄道ファンもたくさんおり、過去のクリアファイルを全て集めているという方や、今年新しくなった車両写真を全て当てた方など、職員も驚く熱心なファンにたくさん会うことが出来ました。



この第25回鉄道フェスティバルにつきましては、会員各社から絶大なるご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今後とも、ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jametro.or.jp